

公害訴訟は起つさぬ

水俣病患者互助会 大半が同意の署名

水俣病患者とその家族でつくっている「水俣病患者家庭互助会」(中津美芳会長)は、ことしの三月、水俣病に関する公害訴訟を起こさないという申し合わせを行なっていたが、十二日、会員八十九世帯全部の署名がほぼ集まつた。

水俣病はさる二十八年、水俣市を中心で発生、百十一人の患者を出し、これまでに四十二人が死亡。最近では新潟県の阿賀野川周辺でも同じ有機水銀中毒が発生、訴訟問題にまで発展して注目されている。

同互助会では、訴訟を起さないことを決めた理由として①チッソ水俣病が患者に一時見舞い金を支払つて誠意を示している②てもすでに三十四年に補償要求をしない旨会社側と約束をかわして

いる③いま訴訟を起こせば見舞い金を打ち切られ、ただでさえ貧しい患者の家庭が苦しむことになるなどがあげている。

しかし、いったん署名した会員の中にも「眞意ではなかつた。裁判も辞さない」との態度をとる者も若干あり、今後の成り行きが注目されている。

◆中津会長の話 確かに署名は集めた。会の三分の二以上の出席者で決まったことを確認しただけだ。署名簿を会社に渡すようなどとはしない。いまの時点ではやむを得ぬ。

◆渡辺元会長(現顧問)の話 私は「会の指示に従う」ということで署名した。訴えないとは聞いと抗議し取り消す。

◆白吉ふみ子市民会議会長の話 まさかと思っていた。考え方

してほしい。会員の中にはすでに二、三人、中津会長らの行き過ぎ

を怒っている事実がある。

時代の動きと逆行

“社側との默契”疑う目も

解説

三月ごろから互助会が署名を集めていたが、ついにほぼ全員が「水俣病の原因が工場废水とわかつても訴訟はしない」との会の趣旨に患者家庭八十九世帯のうち八十六、七世帯が署名した。住民が連帯して工場公害に敢然と立ち上がり、新潟水俣病、四日市公害、富山のイタイイタイ病のケースなど公害に対するすう勢と全く逆行した動きであることが注目される。

関係者の話によると署名の発端は、さる三月水俣病対策市民会議の一行為厚生省に救済を陳情した。同省の某課長が「結局裁判しない」と問題は解決しないとも

あり、訴訟すれば見舞い金を打ち切られるのではないか」という強い不安で、中津会長らに代わる強力なリーダーがないという不

安が働いたようだ。

しかし、中津会長らの署名は「全に協力して指示に従う」との名目で行なわれ、「訴訟はしない」という説明は口頭でなされており、詳細を知った会員の中には「そんなことは知らなかつた。私は一人でも訴える」という強い意見もあり、また、署名集めが会社側の“見舞い(三千円)と見舞い品”と一緒に行なわれているため、互助会幹部と会社側との間に何か黙契があるのでないかと疑惑の目を向けるむきもあり、今後が注目される。(清原)